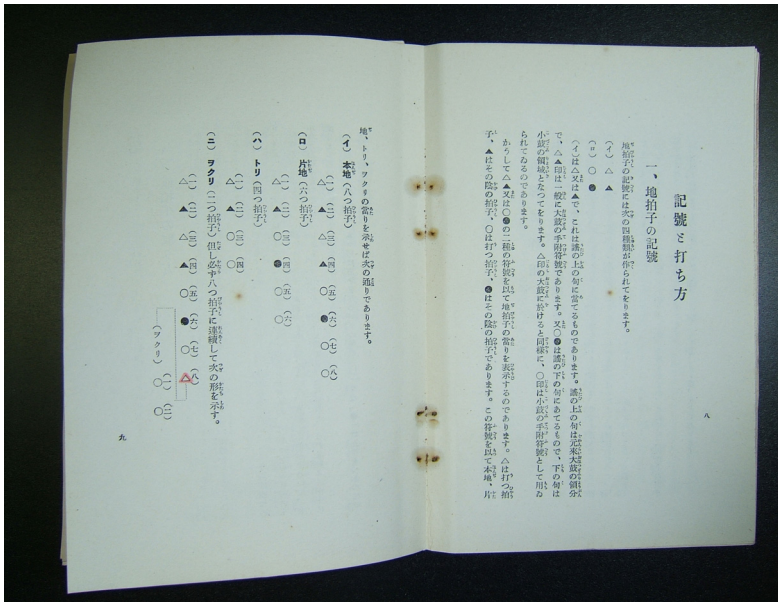


吉田魯洋 『地拍子の取り方 宝生流うたひ方叢書』

宝生流うたひ方叢書の九冊目。地拍子の初歩を説く。通常は、平ノリ、中ノリ、大ノリの順に説明が進むのが一般的だが、本書は、大ノリ、中ノリ、平ノリの順に説明を進める。「平のりの拍子が一番複雑してゐてむつかしいのです（中略）本書は比較的容易に会得出来る大のりから入ることゝしました」（はしかき）とある。著者は、桐谷正治氏の後をつぎ、地拍子関係記事を雑誌『宝生』等に執筆し、積極的に地拍子教授を展開している。大のりから入る便法は、そういった教授経験から生まれたのだろう。



標題 内題…地拍子の取り方 宝生流うたひ方叢書

方叢書

標題紙…宝生流うたひ方叢書 地拍子の

取り方

奥 附…「宝生流うたひ方叢書」地拍子

の取り方

その他…地拍子の取り方 宝生流うたひ

方叢書（目次・背）、地拍子の取

り方（表紙）

著者 奥 附…吉田只雄（魯洋）

その他の場所…吉田魯洋（序・標題紙・

表紙・背）

出版 版次…第一版

出版地…東京

出版社…わんや書店

出版年…昭和12（1937）

その他の場所…序 昭和12（1937）

形態 冊数…一冊 頁数…六七頁

寸法…19×13（cm）

状態 写本版本の別…版本 現物複写の別…現物

備考